

「石本正日本画大賞展」のあゆみ

(2011年～2019年)

2011年、島根県西部・石見地方から全国に向けて芸術文化を発信する「碧い石見の芸術祭」(主催 芸術と文化のまちづくり事業実行委員会)が始まりました。年間を通して様々なアートイベントを企画する中で、その大きな柱となったのが、全国の美術系大学で日本画を学ぶ学生の奨学を目的とした展覧会の開催でした。

当初は、《美術大学選抜日本画展》として始まったこの展覧会。京都市立芸術大学や京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）で長年後進の育成に力を注いだ、浜田市三隅町出身の日本画家・石本正の精神を受け継ぎ、その功績を顕彰するために開催されてきました。

日本画専攻のある全国の美術系大学に出品を呼びかけ、各校で推薦を受けた作品を募集。「絵は上手い下手ではなく、心で描くものだ」という石本の創作姿勢に深い理解を示す、現代日本画壇の第一線で活躍される先生方に審査していただきました。そして、優秀な作品に賞を与えて奨学金を贈呈し、学生の創作活動を支援してきました。

また、授賞式にあわせて三隅町に学生や先生方を招いて交流会を実施。全国各地の美術学生が大学の枠を越えて交流する場であり、審査員の先生方から直接講評を受けられる貴重な学びの場でもあります。短い滞在日数ながら学生たちは、本物の石本作品に触れ、石州和紙の紙すき体験や石見神楽を鑑賞し、地元の方々による浜田の新鮮な山海の幸を使った手料理に舌鼓。学生同士や地元住民との会話も弾み、心通うなごやかなひとときを過ごします。自然豊かな石見の地で育まれた芸術文化を体感できるこのプログラムは「心づくしのおもてなしで充実した時間を過ごせた」と毎年ご好評をいただいています。

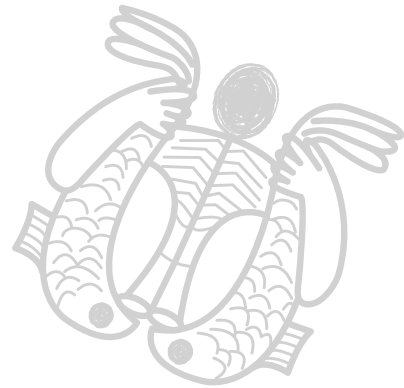
回を重ねるごとに出品校は増え、近年では出品を依頼した大学約30校のほとんどが参加という、推薦制学生公募展としては全国でも他に類を見ない規模に成長しました。これまでの受賞者や出品者の中には、現在日本画壇で活躍する作家となった方も多くおられます。今後ますます活躍が期待される方々の画歴の中に「石本正日本画大賞展」の存在があることは、地方から芸術文化を発信し、若き作家にエールを送り続けてきた本展にとっても大変意義のあることと思います。

ここでは2011年～2019年までのあゆみを、受賞作品や記録写真とともに振り返ります。

回数	開催年度	出品校数	出品数	展覧会名	会場	備考
1	2011	7	85	美術大学選抜日本画展	浜田市立石正美術館 ギャラリー 岡見地区スポーツセンター	買上げなし
2	2012	18	206	全国美術大学奨学日本画展	三隅中央会館 多目的ホール	〃
3	2013	19	162	全国美術大学奨学日本画展	浜田市立石正美術館 ギャラリー 三隅中央会館 多目的ホール	受賞作品の一部買上げ開始（以後毎年）
4	2014	22	172	全国美術大学奨学日本画展	三隅中央会館 多目的ホール	
5	2015	受賞者 82名中	52	第1回 石本正 日本画大賞展	浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー	
6	2016	24	186	第2回 石本正 日本画大賞展	浜田市立石正美術館 企画展示室 三隅中央会館 多目的ホール	
7	2017	28	80	第3回 石本正 日本画大賞展	浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー	展示会場を石正美術館のみに変更 各大学から最大3点の推薦とあらためる
8	2018	31	88	第4回 石本正 日本画大賞展	浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー	
9	2019	30	87	第5回 石本正 日本画大賞展	浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー	
10	2020	—	—	第6回 石本正 日本画大賞展	浜田市立石正美術館 企画展示室	新型コロナウイルス感染症の影響により中止 →歴代買上作品を初めて一堂に展示する 「石本正日本画大賞展のあゆみ」開催

1

碧い石見の芸術祭 2011 美術大学選抜日本画展



会期：2011（平成23）年10月20日（木）～11月17日（木）
会場：浜田市立石正美術館 ギャラリー・岡見地区スポーツセンター
主催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会
後援：浜田市・浜田市教育委員会・公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
NHK 松江放送局・BSS 山陰放送・日本海テレビ・山陰中央テレビ・エフエム山陰・朝日新聞松江総局
山陰中央新報社・毎日新聞社・中国新聞社

【概要】

浜田市三隅町が誇るユネスコ無形文化遺産の「石州半紙」、日本画家・石本正が故郷にのこした膨大な作品をはじめ、石見地域固有の豊かな文化を多くの人に知っていただき活用することで地域の発展に貢献することを目的として《碧い石見の芸術祭》は始まりました。初年度は、「美術大学選抜日本画展」と「無垢な心のアート展」を柱に開催されました。第1回目となる「美術大学選抜日本画展」では、関東・関西の7つの美術大学が参加。地元住民とのふれあいや異なる大学の学生間での有意義な交流を行いました。

【参加校】（7大学85点）

多摩美術大学、女子美術大学、沖縄県立芸術大学、成安造形大学、京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都精華大学（順不同）

【審査員】（敬称略・順不同）

榎 俊幸（創作画家）

大谷 俊一（彫刻家）

小西 通博（京都精華大学・教授）

齋藤 修（版画家）

中堀 慎治（日本画家）

西田 知世（女子美術大学・助手）

西久松 吉雄（成安造形大学・教授）

楡木 令子（造形作家）

橋本 弘安（女子美術大学・教授）

吉川 弘（京都造形芸術大学・教授）

米谷 清和（多摩美術大学・教授）

平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）

【展示会場・交流会】

石正美術館ギャラリー



岡見地区スポーツセンター



オープニングセレモニー（会場：三隅神社）



「美術大学選抜日本画展」表彰式
（写真：【大賞】浜田市市長賞受賞
多摩美術大学 谷保 玲奈さん）



作家 中堀慎治氏（写真左）・榎俊幸氏による石州和紙に即興で描く「阿吽」の龍の制作



河内奏楽中による神楽の上演



神楽鑑賞の様子

交流会



「美術大学選抜日本画展」
岡見会場見学



「無垢な心のアート展」見学



「美術大学選抜日本画展」
石正美術館ギャラリー見学



ユネスコ無形文化遺産決定3周年記念
石州半紙「つむぎおり・手芸展」見学



石州半紙 紙すき体験（石州和紙会館）



自分で漉いた和紙に絵付けをする様子（石正美術館 創作室）
完成した絵は照明作品に仕立て、古刹曹洞宗龍雲寺で展示された→





【受賞作品】

＜大賞 浜田市長賞＞

「血が泣いている」

多摩美術大学 修士2年
谷保 玲奈



＜浜田市教育長賞＞

「1000」

京都造形芸術大学 4年
久保 智昭



＜浜田市議会議長賞＞

「教育されとる図」

京都市立芸術大学 修士1年
服部 しほり



＜奨励賞 特別館長賞＞

「カラフルパネル」

多摩美術大学 3年
服部 桜子

＜奨励賞＞

「flow」多摩美術大学 修士2年 小谷 里奈

「眠りの通る場所で」多摩美術大学 4年 渡邊 透真

「解体」多摩美術大学 3年 鈴木 美保子

「覗き込むと」女子美術大学 修士1年 高山 真衣

「公園」女子美術大学 4年 高橋 彩永

「R」女子美術大学 3年 山村 遥

「時の風」京都市立芸術大学 博士2年 吉田 幸紘

「あたらしいうた」京都市立芸術大学 修士1年 武部 翔子

「眠」京都造形芸術大学 修士1年 顧 アテイ

「侵略」京都造形芸術大学 3年 福嶋 梢

「斐伊川土手 近景・夏」京都精華大学 2年 楨野 青葉

「夢彩」京都精華大学 3年 久保 文音

「胞」京都精華大学 3年 岩本 樹

「子どもとサンダル」京都精華大学 修士1年 河野 有希

「鼓動」京都精華大学 修士2年 前川 祥子

「時の踊り」成安造形大学 研究生 丸岡 未来

「絶えぬ念い」成安造形大学 4年 池田 百合絵

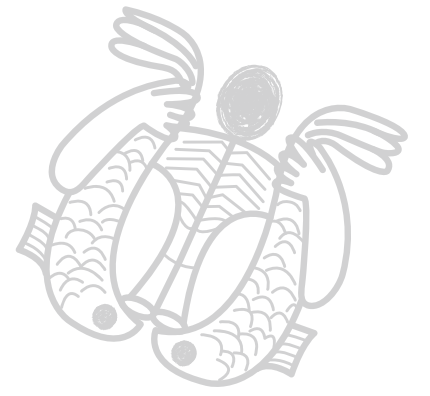
「想」成安造形大学 研究生 鈴木 梨華

「嘲笑う悪意」沖縄県立芸術大学 4年 関 康広

「根」沖縄県立芸術大学 2年 高岡 秀樹

碧い石見の芸術祭 2012

全国美術大学奨学日本画展（改称）



会期：2012（平成 24）年 9 月 1 日（土）～ 9 月 30 日（日）

会場：三隅中央会館 多目的ホール

主催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会

後援：浜田市・浜田市教育委員会・（財）浜田市教育文化振興事業団・朝日新聞松江総局・山陰中央新報社
毎日新聞社・中国新聞社・読売新聞浜田支局 NHK 松江放送局・BSS 山陰放送・日本海テレビ
山陰中央テレビ・エフエム山陰・石見ケーブルビジョン株式会社・ひとまるビジョン

【概要】

2 年目は、全国の美術系大学に推薦を依頼し出品された作品による公募展として開催。
展覧会名を「全国美術大学奨学日本画展」と改めました。

また審査にあたっては、石本先生と親交の深い小嶋悠司先生・竹内浩一先生をお招き
して行いました。

全国 18 校から 206 点の出品という歴代最多の作品数となりました。

【参加校】（18 大学 206 点）

愛知県立芸術大学、大阪芸術大学、大阪成蹊大学、沖縄県立芸術大学、金沢美術工芸大学、京都市立芸術大学、
京都嵯峨芸術大学・短期大学部、京都精華大学、京都造形芸術大学、女子美術大学、成安造形大学、宝塚大学、
多摩美術大学、筑波大学、東京藝術大学、東北芸術工科大学、奈良芸術短期大学、広島市立大学 （50 音順）

【審査員】

小嶋 悠司（日本画家）

竹内 浩一（日本画家）

平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会 実行委員長）

（敬称略・50 音順）

【選考会】（会場：三隅中央会館）



選考をする小嶋 悠司先生（写真左）
と竹内 浩一先生



【オープニングテープカット】



【オープニングセレモニー】（会場：リハビリテーションカレッジ島根）



選考委員 小嶋 悠司 先生の挨拶



大賞受賞 小林 紗世子さんの挨拶



授賞式の様子



岡見神遊座による神楽上演



《阿吽の龍》 目入れ式 榎 俊幸 氏



《阿吽の龍》 目入れ式 中堀 慎治 氏

【《阿吽の龍》公開制作】



中堀・榎両氏が前年の芸術祭セレモ
ニーで制作した《阿吽の龍》。この完
成までを石正美術館創作室で公開。

【講評会】（会場：三隅中央会館）



選考委員の小嶋 悠司先生のお話を聴きながら、絵の講評を受ける学生たち。
後の自由時間では、率先して自分の絵を他大学の教授陣に講評してもらう学生の姿も。



【学生交流会】



地元食材を使った田舎料理と地酒で学生、教授、地元住民が交流を深めた。



【受賞作品】

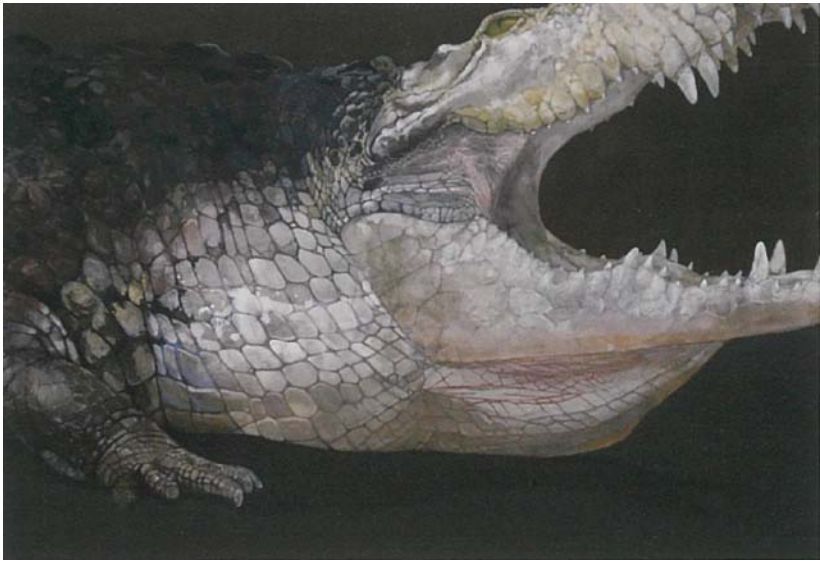


＜大賞＞

「テンとシン」

京都市立芸術大学 修士1年

小林 紗世子



＜準大賞＞

「虚無」

女子美術大学 3年

慶野 智子



＜準大賞＞

「再生」

大阪芸術大学 修士2年

小島 友理

＜奨励賞＞



「アーティーチョーク」
大阪成蹊大学 2年
尾高 宏起



「睨む」
金沢美術工芸大学 修士1年
竹内 昌二



「覚」
東北芸術工科大学 修士2年
塩澤 清志



「一眠一」
筑波大学 3年
牧野 一穂



「埋もる」
成安造形大学 2年
竹中 仁美



「不在」(石州半紙技術社会会長賞)
京都市立芸術大学 修士2年
三橋 卓



「Linkage」
京都嵯峨芸術大学 2年
湊 智瑛



「時雨」
京都精華大学 3年
山口 加峰



「五月の器」
東京藝術大学 修士1年
川崎 麻央



「休日の朝」(石正美術館長賞)
奈良芸術短期大学 研究生
花本 鈴子



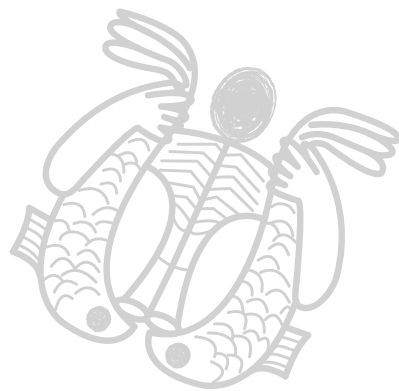
「ゆらゆら」
奈良芸術短期大学 研究生
白川 奈央子



「障雲の下」(水澄みの里賞)
筑波大学 2年
鈴木 沙織

3

碧い石見の芸術祭 2013 全国美術大学奨学日本画展



会期：2013（平成 25）年 8 月 20 日（火）～ 9 月 16 日（月・祝）
会場：浜田市立石正美術館ギャラリー・三隅中央会館多目的ホール
主催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会
協力：リハビリテーションカレッジ島根・アクアみすみ・ひゃこるネットみすみ
後援：浜田市・浜田市教育委員会・公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
朝日新聞松江総局・山陰中央新報社・毎日新聞社・中国新聞社・読売新聞浜田支局
NHK 松江放送局・BSS 山陰放送・日本海テレビ・山陰中央テレビ・エフエム山陰

3 年目は、全国 19 校から 162 点の出品。審査員として、小嶋悠司先生・竹内浩一先生に加え、新たに中野嘉之先生にご参加いただけることになりました。そして、この年から受賞作品の一部を買上げるようになります。

【参加校】（19 大学 162 点）

大阪芸術大学、大阪成蹊大学、沖縄県立芸術大学、尾道市立大学、金沢美術工芸大学、京都市立芸術大学
京都嵯峨芸術大学・短期大学部、京都精華大学、京都造形芸術大学、九州産業大学、倉敷芸術科学大学、女子美術大学、
成安造形大学、多摩美術大学、筑波大学、東京芸術大学、東北芸術工科大学、名古屋芸術大学
奈良芸術短期大学 （50 音順）

【審査員】

選考委員長 竹内 浩一（日本画家）
選考委員 小嶋 悠司（日本画家）、中野 嘉之（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）



＜大賞＞「亡魂咆哮」
筑波大学 博士特別研究員 牧野 一穂

【受賞作品】

＜大賞＞ 「亡魂咆哮」筑波大学 博士特別研究員 牧野 一穂	「郷」金沢美術工芸大学 修士 2 年 岩田 邦佑 「生物遺骸を無機物に還元する景」 九州産業大学 4 年 飯尾 寿子	「夏の終わりに…」奈良芸術短期大学 専攻科 2 年 永井 由美子 「朝」京都精華大学 3 年 津田 麻菜美
＜準大賞＞ 「樹下土石」京都造形芸術大学 3 年 吉原 拓弥 「刻む」大阪芸術大学 3 年 竹内 茉莉	「或る街の行方」東京芸術大学 4 年 伊東 春香 「ほろほろ」倉敷芸術科学大学 4 年 佐藤 千乃 「girl」倉敷芸術科学大学 修士 1 年 出口 智大	「枯れ枯れ」東京芸術大学 修士 1 年 本多 翔 「日知り」筑波大学 修士 1 年 岡野 智史
＜奨励賞＞ 「再生」九州産業大学 2 年 高松 雄大 「ブッカカリ」多摩美術大学 4 年 千葉 大二郎	「羽化」倉敷芸術科学大学 4 年 吉原 柚花 「森森」沖縄県立芸術大学 4 年 高岡 秀樹	「狭間に落ちる」金沢美術工芸大学 3 年 井上 知美 「AMAGUM」東北芸術工科大学 修士 1 年 多田 さやか 「うつろひ」東北芸術工科大学 修士 1 年 古田 和子 「境界」女子美術大学 4 年 慶野 智子

4

碧い石見の芸術祭 2014 全国美術大学奨学日本画展

【会期】2014（平成 26）年 8 月 30 日（土）～ 10 月 5 日（日）
【会場】三隅中央会館多目的ホール
【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会
【助成】公益財団法人 朝日新聞文化財団
【後援】経済産業省中国経済産業局・国土交通省中国地方整備局・島根県・公益財団法人しまね産業振興財団
浜田市・浜田市教育委員会・公益財団法人浜田市教育文化振興事業団・山陰中央新報社・中国新聞社・NHK 松江放送局・
石見ケーブルビジョン株式会社・ひとまろビジョン・石見ケーブルビジョン株式会社・ひとまろビジョン

【参加校】（22 大学 172 点）

札幌大谷大学、東北芸術工科大学、金沢美術工芸大学、筑波大学、東京芸術大学、多摩美術大学、
女子美術大学、名古屋造形大学、名古屋芸術大学、愛知県立芸術大学、成安造形大学、京都市立芸術大学
京都嵯峨芸術大学・短期大学部、京都造形芸術大学、京都精華大学、大阪芸術大学、大阪成蹊大学、
奈良芸術短期大学、比治山大学短期大学部、広島市立大学、九州産業大学、沖縄県立芸術大学（順不同）

【審査員】

選考委員長 中野 嘉之（日本画家）
選考委員 小嶋 悠司（日本画家）、竹内 浩一（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）



＜大賞＞「暮秋」
東北芸術工科大学 4 年 清水 悠生

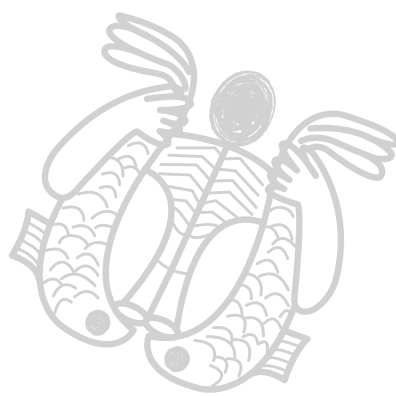
【受賞作品】

＜大賞＞ 「暮秋」東北芸術工科大学 4 年 清水 悠生	「いとなみ（眠り）」多摩美術大学 3 年 中村 美香子 「BLEACH」筑波大学 修士 1 年 堀 雄太 「緑の息吹」京都造形芸術大学 3 年 田中 克典	「溢れ出たもの」愛知県立芸術大学 3 年 田尻 彩花 「樹陰」京都造形芸術大学 修士 2 年 梶浦 隼矢
＜準大賞＞ 「放浪者」東京芸術大学 修士 2 年 本多 翔 「文」東京芸術大学 4 年 渡邊 ゆう	「時満ちて」筑波大学 修士 2 年 喜浦 愛 「溶けた音は安らかに」東京芸術大学 修士 1 年 島田 沙菜美 「Remember world」東京芸術大学 修士 1 年 曳地 聡美	「葦音」京都精華大学 4 年 千本 芽里 「宇宙に在る」広島市立大学 修士 2 年 南保 茜
＜奨励賞＞ 「永日」京都造形芸術大学 3 年 長尾 鴻平 「断片」成安造形大学 研究生 宮城 幸佑 「群れ」奈良芸術短期大学 専攻科 2 年 西田 香織	「指針」多摩美術大学 2 年 前島 愛由 「めぐる」女子美術大学 4 年 近藤 ひかり 「付図」愛知県立芸術大学 3 年 飯田 穂野香	「TRIP」東北芸術工科大学 修士 2 年 加藤 菜里恵 「カイ」京都市立芸術大学 4 年 兒島 優美 「見つけて」札幌大谷大学 3 年 佐々木 彩加 「滲む春の声」京都精華大学 4 年 中村 有沙

5

碧い石見の芸術祭 2015

第1回 石本正 日本画大賞展（改称）



【会期】2016（平成28）年1月30日（土）～3月13日（日）
【会場】浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー
【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館
【後援】経済産業省中国産業局・国土交通省地方整備局・島根県・島根県教育委員会
公益財団法人しまね産業振興財団・浜田市・浜田市教育委員会・公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
山陰中央新報社・石見ケーブルビジョン・ひとまるビジョン

《碧い石見の芸術祭》5年目を記念し、過去4回展の中で受賞された方々に出品をお願いして開催した招待展。

長年審査員を務めてくださった小嶋悠司先生に代わり、同じく石本先生の教え子でいらっしゃる西久松吉雄先生に選考に加わっていただくようになりました。

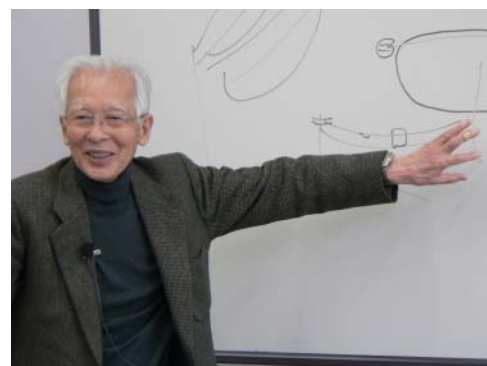
＜展覧会名改称について＞

これまで自分の名前を公募展に冠することを固辞してこられた石本先生。先生の「絵に対する心」を柱とした展覧会であることから何度も重ねてお願いし、ようやく「第1回 石本正 日本画大賞展」として開催が決まっていた矢先のこと。2015年9月に石本先生が急逝されました。開催当初から“若い力あふれる学生の作品を見たい”と念願されていた先生に、作品を見ていただくことも、直接ご指導いただくことも叶わなくなりましたが、石本先生の精神を受け継ぐ審査員の先生方をはじめ、多くの方々のご協力を得ながら、「石本正日本画大賞展」として新たなスタートを切ることとなりました。

【出品数】過去受賞者52名／52点

【審査員】

選考委員長 西久松 吉雄（日本画家）
選考委員 竹内 浩一（日本画家）
中野 嘉之（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会 実行委員長）



【受賞作品】※所属は出品当時のもの

＜大賞＞



「水際立つ」
多摩美術大学大学院 修了
小谷 里奈

＜準大賞＞

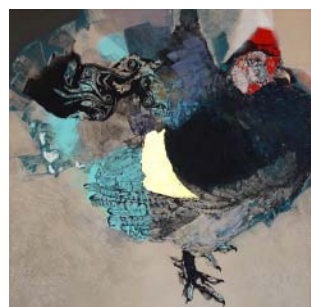


「なみだ雨」
京都市立芸術大学 卒業
三橋 卓

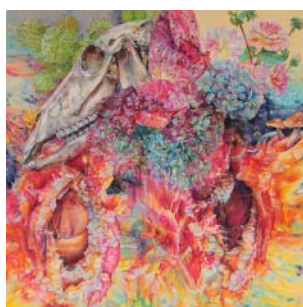


「eternal」
京都精華大学大学院 修了／創画会所属
前川 祥子

＜奨励賞＞



「七晩み」
東京藝術大学 博士2年
川崎 麻央



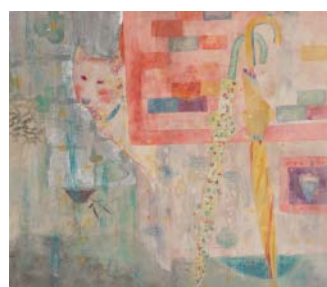
「解離下の意識」
多摩美術大学大学院 修了
谷保 玲奈



「夢の香り」
筑波大学大学院 修了
牧野 一穂



「川」
大阪芸術大学 修士1年
竹内 栄利



「おかえりなさい」
成安造形大学 研究生 修了
丸岡 未来



「樹下繫命」
京都造形芸術大学 修士1年
吉原 拓弥

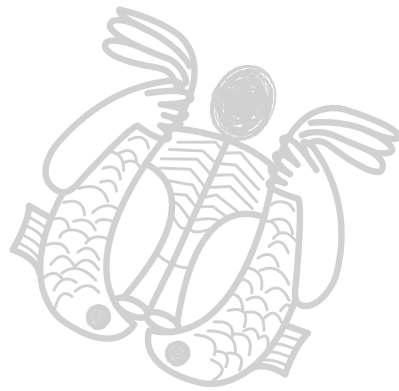


「溶けて月」
京都造形芸術大学 卒業
久保 智昭

6

碧い石見の芸術祭 2016

第2回 石本正 日本画大賞展



【会期】2016（平成28）年8月30日（火）～9月25日（日）
【会場】浜田市立石正美術館 企画展示室・三隅中央会館多目的ホール
【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館
【後援】経済産業省中国経済産業局、国土交通省中国地方整備局、島根県、島根県教育委員会
公益財団法人しまね産業振興財団、浜田市、浜田市教育委員会、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
山陰中央新報社、中国新聞社、NHK 松江放送局、石見ケーブルビジョン、ひとまるビジョン

【参加校】（25 大学 186 点）

札幌大谷大学・東北芸術工科大学・金沢美術工芸大学・筑波大学・文星芸術大学・東京芸術大学
多摩美術大学・女子美術大学・常葉大学・名古屋芸術大学・名古屋造形大学・成安造形大学・京都精華大学
京都造形芸術大学・京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学 短期大学部・京都市立芸術大学・大阪芸術大学・大阪
成蹊大学・奈良芸術短期大学・宝塚大学、倉敷芸術科学大学、広島市立大学、九州産業大学、沖縄県立芸術大学（順不同）

【審査員】

選考委員長 竹内 浩一（日本画家）
選考委員 西久松 吉雄（日本画家）
武田 州左（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）

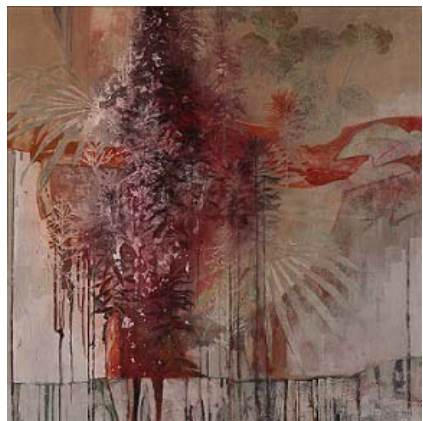
【受賞作品】

＜大賞＞
「領域外」女子美術大学 博士後期2年 藤原 宇希子
＜準大賞＞
「苑」東京芸術大学 修士1年 大塚 なつ実
「漂い」沖縄県立芸術大学 3年 小林 実沙紀
＜審査員特別賞＞
「解夏」東京芸術大学 3年 小田川 史弥
＜奨励賞＞（順不同）
「さざめき」東北芸術工科大学 4年 神谷 恵
「かえりみち」金沢美術工芸大学 4年 本田 貴哉
「harmony」東京芸術大学 修士2年 中根 航輔
「夏の夜」東京芸術大学 修士1年 岩谷 晃太
「雨音」東京芸術大学 修士1年 能登 真理亜

「ユートピア建築」多摩美術大学 4年 柴田 真実
「べに咲く」多摩美術大学 3年 奥田 夏鈴
「雪が降った日」多摩美術大学 3年 清水 友麻
「後ろ足」多摩美術大学 3年 眞瀬 翼
「静刻」成安造形大学 4年 久保 璃空
「音色」京都精華大学 3年 森 紗貴
「断つ」大阪芸術大学 修士1年 中川 翔太
「満開の線」倉敷芸術科学大学 博士2年 金 孝妍
「のぞむかげ」倉敷芸術科学大学 4年 平松 若葉
「幸福であったすべてのこと」広島市立大学 修士2年 原田 さおり
「Overlap」沖縄県立芸術大学 3年 湖城 磨李奈
「とこしえ」沖縄県立芸術大学 修士1年 金城 桜



＜大賞＞「領域外」
女子美術大学 博士後期2年
藤原 宇希子



＜準大賞＞「苑」
東京芸術大学 修士1年
大塚 なつ実

7

碧い石見の芸術祭 2017

第3回 石本正 日本画大賞展

【会期】2017（平成29）年8月29日（火）～10月9日（月・祝）
【会場】浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー
【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館、浜田市、浜田市教育委員会
公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、山陰中央新報社、中国新聞社
【後援】国土交通省中国地方整備局、経済産業省中国経済産業局、島根県、島根県教育委員会
公益財団法人しまね産業振興財団、石見ケーブルビジョン、ひとまるビジョン

このたびから会場を石正美術館のみに変更。全体の展示作品数は少なくなったものの、すべての作品が鑑賞に最適な環境で展示できるようになりました。
また、今回から審査員として土屋禮一先生（日展副理事長）をお迎えし、選考にあたっていました。

【参加校】（28 大学 80 点）

札幌大谷大学・東北芸術工科大学・金沢美術工芸大学・金沢学院大学・筑波大学・文星芸術大学・東京芸術大学
武蔵野美術大学・多摩美術大学・女子美術大学・名古屋芸術大学・名古屋造形大学・成安造形大学・京都精華大学・
京都造形芸術大学・嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学・京都市立芸術大学・大阪芸術大学・大阪成蹊大学
奈良芸術短期大学・宝塚大学・倉敷芸術科学大学・尾道市立大学・広島市立大学・比治山大学短期大学部・九州
産業大学・崇城大学・沖縄県立芸術大学（順不同）

【審査員】

選考委員長 中野 嘉之（日本画家）
選考委員 土屋 禮一（日本画家）、西久松 吉雄（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）

【受賞作品】

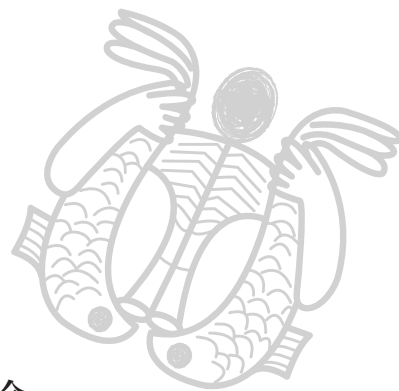
＜大賞＞
「竹の切り株」成安造形大学 2年 千坂 尚義
＜準大賞＞
「日陰にて」東北芸術工科大学 修士1年 鈴木 咲穂
「朽ちては紡ぎだす」筑波大学 修士2年 瀧本 泰士

＜奨励賞＞（50音順）
「馳せる裏側で」九州産業大学 修士1年 赤司 真里菜
「春醒め」尾道市立大学 修士2年 池上 望月
「薫る」金沢美術工芸大学 3年 鶴飼 由梨
「巡る」女子美術大学 3年 太田 美歌
「direction」多摩美術大学 3年 高山 美乃里



＜大賞＞「竹の切り株」
成安造形大学 2年 千坂 尚義

碧い石見の芸術祭 2018
 第4回 石本正 日本画大賞展



【会期】2018（平成30）年8月28日（火）～10月8日（月・祝）
 【会場】浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー
 【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館、浜田市、浜田市教育委員会
 公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、中国新聞社
 【後援】経済産業省中国経済産業局、国土交通省中国地方整備局、島根県、島根県教育委員会
 公益財団法人しまね産業振興財団、山陰中央新報社、石見ケーブルビジョン、ひとまるビジョン

【参加校】 (31 大学 88 点) ※歴代最多参加校数

札幌大谷大学・東北芸術工科大学・金沢美術工芸大学・金沢学院大学・金城大学短期大学部・筑波大学・文星芸術大学・東京藝術大学・武蔵野美術大学・多摩美術大学・女子美術大学・常葉大学・名古屋芸術大学・名古屋造形大学・成安造形大学・京都精華大学・京都造形芸術大学・嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学・京都市立芸術大学・大阪芸術大学・大阪成蹊大学・奈良芸術短期大学・倉敷芸術科学大学・尾道市立大学・広島市立大学・比治山大学短期大学部・九州産業大学・大分県立芸術文化短期大学・崇城大学・沖縄県立芸術大学（順不同）

【審査員】

選考委員長 中野 嘉之（日本画家）
選考委員 土屋 禮一（日本画家）
西久松 吉雄（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）

【受賞作品】

＜大賞＞
「鳴いた象」東京藝術大学 修士1年 佐藤 佑
＜準大賞 第一席＞
「入口」金沢美術工芸大学 4年 乙部 亮
＜準大賞 第二席＞
「右あしのさき」成安造形大学 研究生 上野 モモ

＜奨励賞＞（50音順）

「耽る」大阪芸術大学 4年 井汲 玲

「かけひき」武蔵野美術大学 修士1年 齊藤 拓未

「終わらない」大阪芸術大学 修士1年 佐古 奈津実

「連」東北芸術工科大学 修士1年 春原 直人

「夢がたり」京都精華大学 修士1年 森 紗貴



＜大賞＞「鳴いた象」
東京藝術大学 修士1年 佐藤 佑



＜準大賞 第一席＞「入口」
金沢美術工芸大学 4年 乙部 亮

碧い石見の芸術祭 2019
 第5回 石本正 日本画大賞展

【会期】2019（令和元）年8月27日（火）～10月14日（月・祝）
 【会場】浜田市立石正美術館 企画展示室・ギャラリー
 【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館、浜田市、浜田市教育委員会
 公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、中国新聞社
 【後援】山陰中央新報社、石見ケーブルビジョン、ひとまるビジョン

【参加校】 (30 大学 87 点)

札幌大谷大学・東北芸術工科大学・金沢美術工芸大学・金城大学短期大学部・筑波大学・文星芸術大学
東京藝術大学・武蔵野美術大学・多摩美術大学・女子美術大学・常葉大学・名古屋芸術大学・名古屋造形大学
成安造形大学・京都精華大学・京都造形芸術大学・嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学・京都市立芸術大学
大阪芸術大学・大阪成蹊大学・奈良芸術短期大学・倉敷芸術科学大学・尾道市立大学・広島市立大学
比治山大学短期大学部・九州産業大学・大分県立芸術文化短期大学・崇城大学・沖縄県立芸術大学（順不同）

【審査員】

選考委員長 中野 嘉之（日本画家）
選考委員 土屋 禮一（日本画家）
西久松 吉雄（日本画家）
平坂 常弘（芸術と文化のまちづくり事業実行委員会実行委員長）

【受賞作品】

＜大賞＞
「移ろい」大阪芸術大学 4年 大槻 ひろか
＜準大賞 第一席＞
「揺く」金沢美術工芸大学 修士1年 工藤 彩
＜準大賞 第二席＞
「土の聲」広島市立大学 修士1年 吉村 織那

＜奨励賞＞（50音順）

「苔むす」成安造形大学 2年 綾田 如香

「赤い家」崇城大学 修士2年 中村 妃菜

「側溝」金沢美術工芸大学 4年 藤井 星夏（中野賞同時受賞）

「土曜日」筑波大学 修士2年 野田 悠

「それはまるで雨のように」東京藝術大学 修士1年 渡邊 美波

＜石正美術館長賞＞

「熱」広島市立大学 4年 福光 透也



＜大賞＞「移ろい」
大阪芸術大学 4年 大槻 ひろか



＜準大賞 第一席＞「揺く」
金沢美術工芸大学 修士1年 工藤 彩